

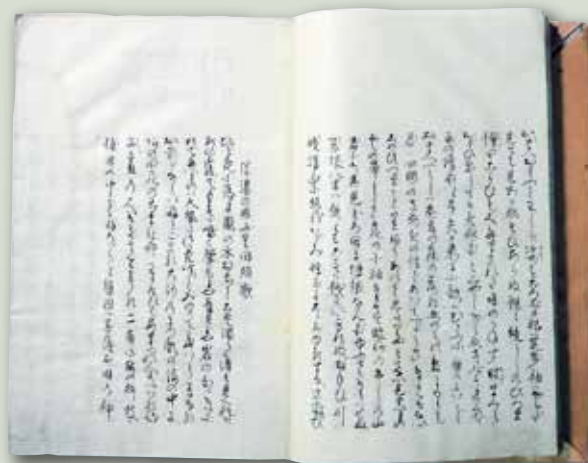
あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.224 2019.9.1

菅江真澄没後190周年特別展

「菅江真澄と民俗学」

菅江真澄自筆本『ひなの「ふし」』



柳田国男直筆原稿「民間伝承論大意」

【会場】松本市立博物館 2階特別展示室
【会期】9月7日(土)～11月24日(日)

遊歴文人・菅江真澄が、秋田の地で没して今年で190周年になります。この特別展では、真澄の信濃における足跡と、松本を中心に柳田国男や胡桃沢勘内により展開された『真澄遊覧記』復刻活動の道のり、2つの道を辿ります。

もくじ	誌上博物館	◇ 菅江真澄と松本のつながり	2-3
	博物館TOPICS	◇ 第1回博物館まつりを開催します	4-5
	博物館のノートから	◇ 新博物館に向けた市民協働事業 「甲冑着付け体験」を開催しました	5
	博物館のノートから	◇ 土器!! どき!! 古代まるごと体験／資料紹介	6
	博物館TOPICS	◇ 企画展案内／ミュージアムショップ通信	7
	ガイドコーナー	◇ はんでんぼく	8

美しく生きる。
健康寿命延伸都市・松本

菅江真澄と松本のつながり

菅江真澄（1754?～1829）は、江戸時代後期の歌人・国学者です。出身は三河ですが、天明3年（1783）、30歳ころに故郷を離れ、信濃をはじめとして越後、奥羽、蝦夷を巡歴しました。その後、故郷へ帰ることはなく、まさに旅に生きた人と言えます。

今回の誌上博物館では、「菅江真澄ってそもそもどんな人?」「真澄と松本にどんな関係性があるの?」、この2点について考えていきます。

菅江真澄の名が遺った理由

菅江真澄の名が200年以上たった現代まで伝えられている最大の理由は、彼が残した旅日記にあると言っても過言ではありません。

彼は50年近くにわたり旅を続けましたが、その間日記や随筆を書き続けました。その最大の特徴は、各地の人々の暮らしに目を向け、丹念に記録していること、そしてその記録を文章だけでなく色彩豊かな絵とともに残していることです。庶民生活の記録が少ない江戸時代において、真澄の記録は大変貴重なものと言えます。

真澄は旅の始まりの一年を信州で過ごしており、その一年の様子を『伊那の中路』や『くめじの橋』などの日記にまとめています。その中には松本の様子を描いたものもあります。七夕の日に道の上に飾られた七夕人形や、お盆の時期に女の子たちが踊っていたササラ踊りの様子、沙田神社の御柱祭の様子を描いた絵などが残っています。このほかにも真澄はたくさんの記録を残しました。

真澄の残した記録は『真澄遊覧記』と総称され、自筆本は国の重要文化財に指定されています。

菅江真澄の人となり

真澄は生涯の大半を旅に過ごした人でした。

真澄は少年のころから旅が好きだったようで、由緒ある神社を拝んだり、名所旧跡を訪ねたりしています。また、旅の途中で発掘された勾玉を見に行ったり、秘蔵されている勾玉を見せてもらったりと、年少の頃から強い好奇心を持っていた様子が伺えます。



菅江真澄肖像画

この好奇心は、晩年まで衰えることがありませんでした。

旅に生きた真澄が、生涯で最も長く過ごした地は秋田でした。そんな秋田には、真澄に関する逸話が多く残されています。ここでは代表的なお話を紹介します。

真澄は「常冠り」の人と言われました。肖像画に描かれているように、いついかなる時もこの頭巾を外さなかったと言われています。例えば、秋田藩藩主に謁見する機会が与えられた時に、「頭巾のままではよければ参上します」と言ったそうです。

またある時、頭巾を無理やり脱がせようとした人がいたそうですが、温厚な真澄もこの時ばかりは腹を立て、刀を取り出したと言われています。

真澄が亡くなった際も、好奇心のある若者が「頭巾を取ってみよう」と言いましたが、老人たちは「あれほど隠していたものを暴くのは人情でない」と言い、そのまま葬ったと言われています。

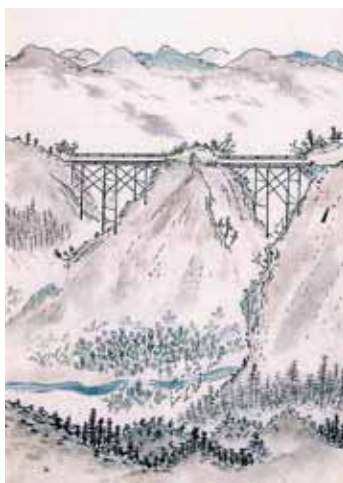
寝る時すら頭巾を外さなかったと言われる真澄ですが、その理由を人に話すことはありませんでした。こうしたミステリアスな要素は人々の関心を集め、さまざまなうわさがささやかれたそうです。

この頭巾だけでなく、真澄は自分の出自や年齢すらも明らかにしていませんでした。その証拠に、真澄の友人たちが建てた墓碑には「卒年七十六七」と刻まれています。晩年の真澄と親しかった人たちでさえ、真澄の年齢を知らなかったのです。

このように真澄は、各地を巡り歩き多くの友人を作った一方で、最後まで謎に包まれた人物でした。逆に言えば、謎多き人物であったにもかかわらず、各地の人々と親しくなり、受け入れてもらえるような人物でもありました。

好奇心に勝てなかった真澄

ある時、真澄は地元のおじいさんに頼んで「とありおとしの橋」（池田町）を見に行きました。いざ橋についた真澄は、計り知れないほど深い谷にかかっているその橋を見て、「一步踏み出すのも危なげで、魂が抜けるような気持ちがするので、渡り切れそうにない」と大変弱気になります。しかし、とても好奇心旺盛だった真澄は「せめて半分まで渡ってみたい」と諦めきれず、案内のおじいさんに



とありおとしの橋
(くめじの橋より)

支えられ、冷や汗をかきながら橋を渡ります。それでもやはり渡り切るのは難しかったようで、半分渡ったところで引き返してきました。

恐怖を感じながらも、好奇心に勝てず恐る恐る足を踏み出した真澄でしたが、この好奇心こそが彼の旅の原動力だったのかもしれません。

菅江真澄と民俗学

真澄は人々の暮らしに注目し、それを丁寧に書き記しました。そんな真澄の視点に感銘を受けたのが、柳田国男をはじめとする民俗学者たちでした。

民俗学とは、習慣や民話、生活用具、信仰など、人々の日常の暮らしについて研究する学問です。日本民俗学の創始者とされるのが柳田国男で、彼は人々の暮らしを丹念に記録した真澄を「日本民俗学の開祖」と称え、その業績を高く評価しました。

真澄に関心を抱いた柳田は、彼の人生を明らかにしたい、彼の業績を広く知ってもらいたい、と真澄研究に情熱を燃やしました。そんな中で力を入れて取り組んだのが、『真澄遊覧記』の復刻本・校訂本の刊行でした。

『真澄遊覧記』の復刻

柳田とともに『真澄遊覧記』復刻本・校訂本の刊行に尽力したのが、胡桃沢勘内を中心とする松本の民俗学者です。胡桃沢勘内は松本出身の歌人ですが、柳田の著作をきっかけに民俗学へ惹かれていき、柳田と親交を深めていきました。

『真澄遊覧記』を信濃で刊行することになったのは、柳田から胡桃沢への提案がきっかけです。柳田は当初、真澄が最も長く過ごした秋田での刊行を計画していましたが、実現することができませんでした。そこで柳田は、松本での講演会後の宴席で、信濃での復刻刊行を胡桃沢に打ち明けました。胡桃沢はかつて池上隆祐や早川孝太郎、橋浦泰雄とともに、『真澄遊覧記』の一つである『くめじの橋』

の挿絵を写し取る計画をたてていたので、この話を受けて、柳田にまず『くめじの橋』の刊行を進めるよう依頼しました。こうして、柳田と胡桃沢をはじめとする松本の民俗学者が中心となって、『真澄遊覧記信濃の部』の刊行が始まりました。



柳田(右)と胡桃沢(左)
(昭和7年話を聞く会にて)

『真澄遊覧記』は、真澄の文章の難解さ、そして彩色画の数の多さから、広く一般に向けて復刻するのは大変難しい資料です。

しかし柳田は、文章理解の助けとなる解説と、図絵の色彩の豊かさを伝えられるカラーの挿絵とがそろってはじめて『真澄遊覧記』を理解できると考えていました。そこで、この2つの課題を克服するために、復刻本(原本の複製)と校訂本(書き下し分や解説)のセット刊行にこだわりました。

このこだわりの構想に基づき、『真澄遊覧記』のうち、信濃に関わる4つが昭和4年(1929)から5年にかけてセット刊行されました。最初に刊行された『くめじの橋』は、はじめ700部を印刷する予定でしたが、「真澄遊覧記刊行会」の会員が、胡桃沢たちの尽力により、信州だけで700名近くになったため、急きょ500部増刷されました。結果1,200部も刷ったわけですが、50部ほどしか残らなかったそうです。

この『真澄遊覧記』刊行は、真澄の直筆資料発見のきっかけにもなりました。松本での刊行事業は、菅江真澄を語る上で欠かすことのできない重要な出来事であったと言えます。

以上、菅江真澄の人となり、松本とのつながりを追いました。松本の民俗学者の熱意を感じていただくとともに、多くの人を惹きつけ、動かした真澄の魅力を感じていただければ幸いです。

(松本市立博物館 学芸員/武井成実)

菅江真澄没後190周年記念特別展「菅江真澄と民俗学」

【会 期】 9月7日(土)～11月24日(日)
【会 場】 松本市立博物館 2階特別展示室
【料 金】 通常入館料(大人200円、小中学生100円)

第1回博物館まつりを開催します

松本市立博物館は明治39年（1906）9月21日、松本尋常高等小学校男子部内に「明治三十七、八年戦役記念館」として開館しました。平成11年（1999）に9月21日を「松本市博物館の日」と定め、20年にわたり、無料開館及び記念品の贈呈を行ってきました。

今年は「松本市博物館の日」に「博物館まつり」を開催します。同じ社会教育施設である公民館、図書館には「まつり」や研究集会があり、活躍している市民の皆さんの発表の場や、楽しめる催しを開催する場となっています。博物館では「まつり」を開催したことがありませんでした。

博物館で活躍されている皆さんとともに

「まつり」を開催するにあたって、まず、博物館で活躍してくださっているエムの会、友の会、市民学芸員の会の皆さんに相談しながら計画しました。

エムの会は昔の遊びを担当します。お手玉、おはじき、あやとり、折り紙を中心とした昔の遊びです。こま、けん玉、めんこなども楽しめます。昔子どもだったエムの会会員と今の子どもたち。どのような交流が生まれるのでしょうか。

友の会の環境歴史部会は「松本城の広さを歩いてみよう！」（要申込）という大人も子どもも対象とした講座を開催します。本丸、二の丸、三の丸を、環境歴史部会会員の説明を聞きながら歩きます。松本城が国宝の天守だけでなく、史跡になっ

ている二の丸や三の丸も含んで構成されているということを、楽しみながら学んでいただきたいと思います。この他に、昔の道具や、戦争中の資料の展示コーナーで、友の会会員が自らの体験をお話します。説明があると違う視点からみえてくるものがあるかもしれません。刀剣部会の刀剣展示もあります。

市民学芸員の会は、昨年度講座を修了した第7期生が中心となり、卡特リ人形づくりと甲冑体験などを開催します。卡特リ人形をつくりながら、どうして、松本地方では七夕人形を飾るのかなど、市民学芸員に聞いてみてください。松本の七夕にまつわる色々な謎が解けるはずです。

甲冑体験は6月8日に1回目を開催し、大変好評だったものです（P5に開催報告）。松本市民の手作り甲冑で、本物のように精巧につくられています。甲冑を着て、心も体も武士になりきりましょう。

懐かしのフィルム放映

博物館では、資料を適切に保存し、皆さんに活用していただくために、修復などの作業を順次行っています。昨年度、昭和30、40年代の松本市政ニュースのフィルムの保存処理及びDVD化を行いました。昭和38年（1963）の市政ニュースでは、今年国宝となる旧開智学校校舎の移築工事の様子が収録されています。他に、市民の女鳥羽川掃除の様子や本町の近代化の様子など、懐かしい風景がよみがえり

第1回 博物館まつり

日時 9月21日（土）9：30～15：30

会場 松本市立博物館及び分館

料金 無料（各館の入館料が必要な場合があります。お問い合わせください）

内容 終日…昔の遊び体験、卡特リ人形づくり、昔のくらし資料展示・体験、甲冑体験、喫茶コーナーもあります
10：00～10：40…オープニングコンサート「信州サクソフーンアンサンブル」ホールニューワールドほか
10：00～12：00／13：00～15：00…講座「松本城の広さを歩いてみよう！」
対象：大人と子ども（小学3年生までは保護者の同伴が必要）
定員：各20名（先着順）
14：00～15：30…「フィルム映像でふりかえる昭和の松本」 定員：60名（先着順）
※講座「松本城の広さを歩いてみよう！」と「フィルム映像でふりかえる昭和の松本」は申込が必要です。
申込開始…9月5日（木）から博物館へ電話で申込

博物館・分館で
クイズに答えると
オリジナル缶バッジ
プレゼント！
（先着順）

分館の
催し

松本民芸館 蓑の展示

旧制高等学校 展示解説、パズル体験

歴史の里 正門、旧昭和興業製糸場ボイラー室公開、市民学芸員による展示解説

四賀化石館 クイズに答えた方に普及用の化石プレゼント、時間を決めて展示解説

はかり資料館 折り紙小物プレゼント

窪田空穂記念館 展示解説、企画展



旧開智学校校舎移築工事の様子

ました。解説とコンサートとを織り交ぜながら映像をご覧ください(要申込)。皆で、感想や思いを語り合しましょう。

当日は、本館及び分館でクイズを行い、参加してくださった方に、各館オリジナル缶バッジなどをプ

レゼントします。先着順です。分館では各館工夫して、クイズ以外の催しも行います。この機会にぜひ、分館へも足をお運びください。

本館では、オープニングコンサートの開催や、喫茶コーナーもあります。「博物館って実はおもしろいところなんだ」と感じていただけたら幸いです。

(松本市立博物館 学芸員 / 山村里佳)

新博物館に向けた市民協働事業「甲冑着付け体験」を開催しました

松本市では、令和5年(2023)の開館を目指して新博物館の整備事業を進めています。新博物館は、従来型の「調査研究」や「学習支援」といった性格だけでなく、「交流」や「キャリア支援」といった新しい性格を加えています。「交流」とは、市民同士や市民と観光客など人と人を結び付けることを意味し、「キャリア支援」とは、生きがいや自己実現に向けた活動をサポートすることです。具体的には、博物館を舞台にして市民が各自の特技・特性を活かした活動を行い、それにより人々の交流が生まれることを想定しています。今回は、その試験的取組みとして、6月8日(土)に「甲冑着付け体験」を市民と協働で開催しました。

開催にあたり、精巧な甲冑レプリカを製作している市民に依頼し、展示している松本藩主戸田家伝世の甲冑をモチーフにしたものなど5領のレプリカを借りることができました。当日の来館者への着付けは、昨年度までに当館主催の養成講座を修了した市民学芸員が行いました。市民が作った甲冑レプリカを市民が来館者へ着付けしたため、博物館は市民同士のつなぎ役と会場設営、広報活動といった裏方の役割を担いました。

当日は、約100人に体験してもらい好評を得ることができました。体験者からは甲冑レプリカの完成



体験の様子

度の高さに驚く声が多く聞かれ、松本城を背景に記念撮影をするなど楽しんでいました。また、着付けを行った市民学芸員は、ただ着付けるだけでなく、甲

冑の説明や来館者への声掛け、記念写真の撮影など、個々の特性を活かした活動がみられ、市民学芸員同士や来館者との交流が生まれていました。

後日、甲冑レプリカ製作者や市民学芸員からは「多くの方に楽しんでもらってよかった」、「もう一度開催したい」との意見が寄せられました。博物館事業としても、本物と同じ構造で作られたレプリカを使用したことで、甲冑への理解が深まり、展示資料への関心が高まるといった効果がみられました。安全な取り扱い方など課題もいくつかみられましたが、新博物館の体験メニューとして継続的に実施できるよう、引き続き検討を進めていきます。

今回の開催をとおして、市民がもつ多様な知識・能力・経験の豊かさを改めて認識することができました。今回は「甲冑」をテーマにしましたが、「自分の特技を活かしたい」「なにか活動がしたい」「人と交流したい」と考えている市民は、まだまだ大勢いるでしょう。新博物館が、そうした市民を結び付けて市民同士や市民と観光客との交流を創出し、市民の生きがいづくりに貢献する場になるとともに、博物館にとっても、様々な市民と協働することで活動に多様性が生まれ、博物館自体の魅力や価値を向上させることができるのではないかと考えています。

今後も、様々なかたちで市民参加・協働を図りながら、新博物館整備事業を進めていきます。

(松本市立博物館 学芸員 / 千賀康孝)

考古博物館 Tel.0263-86-4710

土器!!どき!! 古代まると体験

古代の暮らしを体験して学ぶ講座、「土器!!どき!! 古代まると体験」を7月27日(土)に開催しました。12組30人の親子が参加し、古代の生活を楽しみながら学習しました。

この講座は、小学校・中学校の夏休み期間に合わせて毎年開催している講座です。今年は、考古博物館でいつでも楽しめる古代体験の「火おこし」や「弓矢飛ばし」(考古博物館では、ほかに勾玉づくり・鹿角アクセサリー作りなど、予約なしで楽しむことのできる古代体験メニューを実施しています。)に加えて、実際に古墳の石室内部へ入ってみる体験と土鈴づくり、古代の湯沸し体験(古代の着火法「まいぎり法」でつくった小さな火種をたき火にし、縄文土器をつかって湯沸し)をしました。

中山霊園周辺に分布する楯形原古墳群は現在でも数基の古墳を見ることができます。中でも霊園の中央辺りにある中山15号墳は、発掘調査後保存され、横穴式石室も見ることができます。惜しむらくは、普段は入口に金属の格子扉が設置されているため内部に入ることができないことです。

今回、「博物館職員の案内のもと、横穴式石室に実際に入ることで大きささまざまな石で組まれた石室内部の様子を視て、埋葬施設の広さや高さを感じることが特別な体験につながる。」という思いから、「古墳の石室内部へ実際に入ってみる」



いざ!石室内部へ

というプログラムを初めて実施しました。実際に石室内部へ入った参加者からは、「めったにない機会。古墳に入るのは少し怖かったけど、とても楽しかった。」「子どもの付添だったが古墳に入る貴重な体験ができてよかった。」「天井の大きな石はどのように運んだのだろう。」といった感想がありました。

「土器!!どき!! 古代まると体験」は、子どもだけでなく、大人にとっても古代について関心をもち、現在の生活について考える契機になったように思います。考古博物館では、参加者に「楽しかった」と感じてもらえる講座を今後も実施していきます。

(考古博物館 学芸員 / 一ノ瀬幸治)

旧制高等学校記念館 Tel.0263-35-6226

資料
紹介

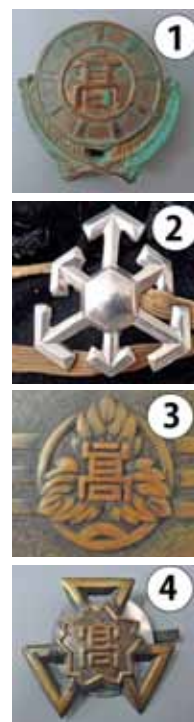
旧制高等学校の校章のいわれについて ～開校100年を迎えた4校を中心に～

旧制高等学校は、全国に41校存在していましたが、各校ではそれぞれを象徴する校章がデザインされていました。各校章は、旧制高等学校記念館の常設展示2階に展示されていますが、それぞれいわれがあります。

まず、①の松本高等学校校章ですが、第九高等学校を表示するため9本の軸が使用されています。しかし、松本高校生には「大八車の車輪のようだ」と言われ不人気でした。次に、②の新潟高等学校の校章は、雪の結晶をかたどるもので、初代校長八田三喜が定規とコンパスでデザインしたものです。そして、③の山口高等学校の校章の兜の楯型風アレンジされた「山」の字には、新月のイメージも含まれており、新月が次第に満月に成ってゆくように、積極的な発展を期する意味がこめられています。最後に、④の松山高等学校の校章については、金色の三光(真善美)の中央に桜花を配し、「高」の字を置いたものが定められました。

このように、各校の校章には、当時、旧制高等学校に関わっていた人々の思いが表れています。

(旧制高等学校記念館 学芸員 / 石原花梨)



松本民芸館 Tel.0263-33-1569

丸山太郎生誕110年記念企画展「丸山太郎の藁（わら）の一生 誇らずじみで美しく」

松本民芸館を創館した丸山太郎の生誕110年にあたる今年は、太郎好みの「美」を紹介しています。今回は「藁」です。太郎は雑誌『信濃路』に「藁の一生」という文章をのせており、稲の一生の驚くばかりの変化に注目しています。藁になってからも、縄や筵、蓑や背負袋、しめ飾りややきものの釉、馬の食糧から壁のつた（すさ）まで、黙々と奉仕する藁の姿に心ひかれました。編組品を中心に、「聖者のごとく尊い生き方」をする藁の美しさをご覧ください。

(松本民芸館 館長 / 田中有規子)

【会 期】9月10日(火)～12月8日(日) 午前9時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)
月曜休館 (祝休日の場合は次の平日)

【会 場】松本民芸館

【料 金】通常観覧料(大人300円※10月1日から310円、中学生以下無料)



荷背負藁(山形県)

窪田空穂記念館 Tel.0263-48-3440

令和元年度企画展「枯れざる生命（いのち） ～空穂と万葉集～」

松本出身の歌人・窪田空穂は、『万葉集』を「枯れざる生命を持ってゐて…」と表現しています。その魅力を多くの人に伝えたいと、昭和17(1942)年から『万葉集』全歌の評釈に取り掛かりました。戦地に赴いた教え子や次男・茂二郎への思いを胸に執筆は続けられ、昭和21年、約5年の歳月を経て『万葉集評釈』が完成しました。

本企画展では、初めて万葉集にふれた若き日から『万葉集評釈』執筆までの空穂の姿を、資料とともに辿ります。

(窪田空穂記念館 学芸員 / 谷口晴菜)

【会 期】9月14日(土)～11月24日(日) 午前9時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)
月曜休館 (祝休日の場合は次の平日)

【会 場】窪田空穂記念館 会議室

【料 金】通常観覧料(大人300円※10月1日から310円、中学生以下無料)



『万葉集評釈』執筆中の窪田空穂

みゅーじあむショップ通信

◎歴史の里より

歴史の里ミュージアムショップでは、「判決等速報用手持幡」を模した手ぬぐいをはじめ書籍や伝統玩具など様々な商品を扱っています。

季節の植物で染めたストールやハンカチなどの草木染め。細く裂いた布を織り込んだ“深山織り（裂き織り）”で作られたがま口や小銭入れをはじめとする小物。スズタケを使って作られた松本を代表する民芸品であるみすず細工の皿ざるや深ざるなど。これらは、どれも当館で開催している体験講座の講師や実演を行っている団体が一点一点手作りしたものです。歴史的な建物と併せ、色とりどりのこれらの商品もぜひ、ご覧ください。

(松本市歴史の里 学芸員 / 八木瑞希)



松本民芸館から

☎0263-33-1569

クラフトピクニック関連企画民芸館体験講座

①「布ぞうり作り」

日 時 10月19日(土)午前10時～午後3時
料 金 1,600円(入館料別途)
講 師 秋山啓子氏

②「真竹で編む鍋敷」

日 時 10月20日(日)午前10時～正午
料 金 1,000円(入館料別途)
講 師 小田詩世氏

※両コース共に

会 場 松本民芸館
定 員 各10名(要予約)
共 催 長野県民藝協会

旧山辺学校校舎から

☎0263-32-7600

山辺の里の道祖神・文化財めぐり(バス見学会)

日 時 10月5日(土)午前8時30分～午後3時40分
集合場所 松本市教育文化センター南側入口付近
受 講 料 510円(資料代・拝観料)
定 員 20名(要予約・先着順)
持 ち 物 昼食・水筒・筆記用具・カメラ
講 師 出井東亜雄氏(山辺歴史研究会顧問)

読み聞かせの会

日 時 10月19日(土)午後1時30分～午後3時
会 場 旧山辺学校校舎
料 金 200円(入館料として)
定 員 70名(要予約・当日申込みも可)
講 師 美咲 蘭氏(オフィス蘭)

旧制高校記念館から

☎0263-35-6226

旧制高等学校記念館・あがたの森図書館連携イベント
「おはなしの会」

成蹊高等学校(旧制)出身の絵本作家である、「かこ さとし」の絵本の読み聞かせを行います。おはなしを聞いた後は、パンカラ君のぬりえ体験もあります。

日 時 11月3日(日)午後2時～3時
会 場 あがたの森文化会館 1-5教室
定 員 20名(要予約・先着順) 小学生以下(保護者同伴)
料 金 無料

歴史の里から

☎0263-47-4515

生誕150周年記念企画展「『木下尚江』という生き方」関連企画

(1) 講演会

日 時 9月15日(日)午前10時30分～正午頃
会 場 歴史の里
料 金 通常入館料(大人400円、中学生以下無料)
定 員 30名(要予約)
講 師 上條宏之氏(元長野県短期大学学長・信州大学名誉教授)

(2) バス見学ツアー「木下尚江ゆかりの場所を訪ねて」

日 時 9月16日(月・祝) 午前9時30分～午後4時30分頃
集 合 歴史の里
料 金 400円(保険代・資料代込み)※昼食は自由行動
定 員 15名(要予約)
講 師 歴史の里 あゆみの会

建築講座「松本のたてもの2019」②

地元で活躍する建築士の方々と協働で、松本の伝統的な建物を紹介する講座です(全4回)。2回目は現地を歩いて巡る見学会です。

日 時 9月28日(土)午前9時～正午頃
集 合 松本市音楽文化ホール駐車場
料 金 200円(保険代・資料代)
定 員 15名(要予約)※往復5～6km(坂道あり)のコースです。
講 師 市内で活躍する一級建築士の皆さん

企画展「松本の製糸業」

建築講座「松本のたてもの2019」合同講演会

松本の製糸業についてご講演いただきます。

日 時 10月27日(日)午前10時30～正午(予定)
会 場 松本市歴史の里
料 金 通常入館料(大人410円、中学生以下無料)
定 員 30名(要予約)
講 師 小松芳郎氏(信濃史学会会長)

窪田空穂記念館から

☎0263-48-3440

企画展記念講演会「万葉集の魅力 ～窪田空穂にふれながら～」

日 時 10月19日(土)午後1時30分～3時
会 場 窪田空穂生家(窪田空穂記念館向かい側)
料 金 無料
定 員 50名
講 師 内藤明氏(早稲田大学教授)

企画展紹介

会 場	内 容	会 期
山 と 自 然 博	企画展「身近な昆虫、トンボ」	開催中～9月29日(日)
松本市立博物館	子規忌展	9月7日(土)～23日(月・祝)
馬 場 家 住 宅	企画展「明治初めの旅事情～道中日記録を手がかりに～」	9月14日(土)～10月27日(日)
考 古 博 物 館	秋季企画展「考古学から探る・奈良平安時代の松本平」	10月5日(土)～12月1日(日)
歴 史 の 里	企画展「松本の製糸業」	10月22日(火)～12月20日(金)

考古博物館や
重文馬場家住宅でも
イベント開催!

詳細はまる博
ホームページへ



あとがき

国宝の答申以来なにかと騒がしい旧開智学校。これまでと注目度がけた違いで、“国宝”効果に驚くばかりの毎日です。旧開智学校を建てた大工棟梁立石清重が手がけた建物の現存事例を探しています。こうした機会に色んな情報が集まってくることを期待しています。(M・E)

あなたと博物館 No.224

発行年月日/令和元年9月1日
編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
URL: <http://www.matsu-haku.com>
e-mail: mcmuse@city.matsumoto.lg.jp

印刷 川越印刷株式会社

